

総務課

I 本年度の目標

以下の諸行事や業務を確実に運営し、学校全体の教育活動が円滑にできるように努める。

- 1 P T A、同窓会等関係諸団体との連携による教育活動の推進
- 2 防災関係行事の円滑な運営・実施と防災教育の推進、及び危機管理体制の充実
- 3 定期刊行物の発刊のための円滑な運営
- 4 式典・集会等の円滑な運営

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

- 1 P T A、同窓会等関係諸団体との連携による教育活動の推進 【3-(4)】
 - (1) P T A会員や常任評議員との連携を密にして、P T A活動がより活発になるようにする。
 - (2) 学校のメール配信を積極的に活用し、P T A活動の円滑化を図る。
 - (3) P T A地区会を通して、学校と保護者の連携を深める。
 - (4) 行事に対する渉外業務を確実に行う。
- 2 防災関係行事の円滑な運営・実施と防災教育の推進及び危機管理体制の充実 【3-(2)】
 - (1) 地区別集会や防災訓練等を通じて、生徒・教職員の防災意識の向上や地域防災への関心を高める。また、地域防災訓練への参加者数を増やす。
 - (2) 防火管理者（教頭）と協議のうえ、消火訓練など本校の防災管理計画を見直す。職員の役割分担を確認する。生徒用防災備蓄用品の充当を確実にを行う。
- 3 定期刊行物の発刊のための円滑な運営 【3-(4)】
 - (1) 年度当初の原稿依頼等、事前準備に早めに取り組み、綿密な計画、スムーズな活動を心がける。
 - (2) 定期刊行物について、役員らの活動の場を広げるため、自主的な活動を勧める。
- 4 式典・集会等の円滑な運営 【2-(1)】
 - (1) 各分掌・学年の協力により、式典・集会等を円滑に運営する。
 - (2) タイムテーブルの検証及び生徒・保護者の動線の効率化をはかる。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（IIから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・地域防災訓練への参加者数を増やす	・地区別集会や防災訓練等を通じて、生徒・教職員の防災意識の向上や地域防災への関心を高める。	・地域防災訓練参加率調査（12月）
視野の広さ	・地区会等のP T A行事を通して、学校と保護者の連携を深める	・保護者と意見交換をして、学校の教育活動への理解と協力を得る。 ・保護者から意見や要望を聴き、教育活動の参考にする。	・地区会で出される意見等の分析（7月） ・年度末にP T A常任評議員への意識調査実施（3月）

教務課

I 本年度の目標

生徒一人一人の自立に向かって、学習環境の整備も含め、授業・学習に関する様々な研究、指導を行うことで、生徒の3つの資質・能力（自己有用感、視野の広さ、主体性）を自ら育めるよう支援する。

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

1. 全ての生徒に対し、確かな学力を育成し、学力保障を推進する。【4－（2）、（3）】

（1）各学年と連携しながら、適切な帰宅時間を保障し、家庭学習習慣の確保と定着を図る。

（2）シラバスの効果的活用と学習評価の研究活動を充実させ、生徒の学習意欲及び学力向上を図る。

（3）生徒に確かな学力を育成するという観点から、授業時間割の作成、定期試験のあり方等を研究する。

2. 開かれた学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進【3－（1）】

（1）土曜授業の公開を円滑に実施し、本校の特色、学習活動の内容を情報発信していく。

（2）土曜授業の実施状況を把握し、ワークライフバランス、生徒の学力保障の観点から、適切な授業日の設定を研究する。

3. これからの時代を生き抜く人材を育成する。【5－（4）、4－（2）】

（1）次期学習指導要領の内容理解を推進および対応について研究し、魅力ある授業づくりを図る。

（2）文理選択や科目選択を通して進路意識を高め、視野を広げながら学習に取り組むよう促す。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・学年、部活動と連携し、家庭学習時間を確保し、主体的に学習に取り組ませる。	・6月、10月に全校生徒対象に帰宅時間と家庭学習量調査を実施し、集計・分析を行うことで学習意欲を喚起させる。	・帰宅時間調査（6月、10月）
視野の広さ	・文理選択（1年）、科目選択（2年）を通じて、進路意識を高め視野を広げさせる。	・9月～11月にかけて各学年で説明会を実施し、将来の職業選択も意識させながら適切な文理選択、科目選択を実現させる。	・文理選択、科目選択本登録（11月）

生徒課

I 本年度目標

『基本的な生活習慣の確立、特別活動・部活動への主体的な取り組み』などの指導をすることで、生徒の成長を図る。

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

- 1 基本的な生活習慣の確立をする。 【1－（1）】、【1－（3）】
 - （1） 清々しい挨拶が率先してできるようにする。
 - （2） 品位ある身だしなみができるようにする。
 - （3） 正しい言葉遣いができるようにする。
 - （4） 毎朝の昇降口指導をする。
 - （5） 集会等を活用して、安心・安全な学校生活であるよう指導する。
 - （6） 自転車ルールの順守を含め、規範意識の向上を図る。
- 2 特別活動・部活動等への主体的な取り組みを促す。【2－（1）】【2－（2）】【2－（3）】
 - （1） 学校行事、ホームルーム活動及び生徒会活動への積極的な参加を促す。
 - （2） 社会貢献活動（ボランティア活動）及び地域活動への積極的な参加を促す。
 - （3） 部活動を通じた人間性、自主性・社会性及び個性・能力の伸長を図る。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（IIから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・清々しい挨拶が率先してできるようにする。	・ホームルーム、委員会、部活動等に積極的に働きかける。	・職員、生徒へアンケートをとる（2月）。
視野の広さ	・学校行事、ホームルーム活動及び生徒会活動、社会貢献活動（ボランティア活動）及び地域活動への積極的な参加を促す。	・ホームルーム、生徒会、委員会活動等において、生徒が多面的に活動や活躍のできる場を設ける。	・職員、生徒へアンケートをとる（2月）。

進路課

I 本年度の目標

- (1) 入学時の進路希望を実現するための学力養成を基盤とし、自ら高い志をかかげ「挑戦」し続ける力の育成を図る。
- (2) キャリア教育の視点に立ち、生徒一人ひとりが卒業後の「なりたい自分の姿」を明確にし、進路実現を図るための進路支援を行う。
- (3) 入学時から卒業に至る3ヵ年を通してあらゆる学習活動を計画的・段階的に行うとともに、良質な研究・教育を提供している4年制大学への進学を核とした進路指導を行う。

II 重点目標（課題）と具体的方策

① 学習活動の充実

【4-(1)】

- ▷ 年度初めの初期指導を充実させ、学習習慣の確立・定着を支援する。
- ▷ 「成績アップキャンペーン」などを通じ、各テスト・外部模試の事前準備とやり直しの定着化を図るための指導を充実させる。
- ▷ 個別面談や個別指導など、粘り強く取り組めるよう支援する。
- ▷ 朝課外、放課後課外、アドバンス講座を企画運営し、生徒の学力伸長を図る。
- ▷ 通学学習会（1年）・勉強合宿（2年）の円滑な運営をおこなう。

② 生徒自身が“自分の未来をみつめる”機会を提供する。

【6-(1)】

- ▷ 全国の大学教授を本校に招き、出張授業を実施することにより、「大学での学び」とはどのようなものかを知り、自らの進むべき分野について考える機会を提供する。
- ▷ 職場体験（ナース体験，医療セミナー，教職セミナーなど）への参加を生徒に強く勧め、生徒自身が自らの適性を知ると同時に、自分が抱いていたギャップを埋める機会を提供する。

③ 生徒の実情を把握し、適切な指導・支援をチームとして行う。

【4-(2)】

- ▷ センター試験結果・入試結果・模試データ等を様々な視点から細かく分析し、本校における課題を明確化・視覚化し、全職員に情報提供する。その共有された情報を元に今後の進路面における戦略構想を立てる。
- ▷ 学習時間調査（6月）を実施し家庭での様子を把握すると共に、クラス単位だけではなく学年全体で学習に対する取り組みをサポートする。

④ 様々な事情を抱える生徒に対し「あきらめさせない」指導を粘り強く行なう。

【4-(2)】

- ▷ スタディレコードを継続的、計画的に実施し、正副担任を中心に面談を行なう。
- ▷ 「出口指導」に終わらないよう、生徒が「生き方・在り方」を考え、将来「大人として生きていく力」を身につけさせることができるよう心がける。
- ▷ 2年次3学期に実施される『第一志望届』を通して、第一志望校を絶対にあきらめさせない、あきらめさせない指導を徹底して行う。
- ▷ 低学年次より駿台、河合塾の外部模試を積極的に受験させ、生徒はハイレベルな問題に触れると共に、全国のライバルを意識させる指導を行う。

⑤ 生徒・保護者に対する最新かつ有益な進路情報の提供 【6-(3)】

- ▷ 定期的な進路だよりの発刊、及び掲示物等による進路情報の提供を充実させる。
- ▷ ベネッセ、河合塾、駿台予備校等による各種研究会へ多くの教員に参加してもらい、最新の入試情報を生徒へ還元できるようにする。

⑥ 校内における進路指導体制の確立 【6-(2)】

- ▷ 本校教員に静岡大学、静岡県立大学の入試問題分析を依頼し、生徒への受験指導におけるスキルアップを図る。
- ▷ 『確かな学力向上静岡ネットの会』との連携を強化し、他校における先進的な取り組みや情報収集を積極的に行い、本校で実施可能な形態を模索する。
- ▷ 実力養成テスト、課題テストの円滑な運営。
- ▷ 進路検討会、新旧3年担任情報交換会を円滑に運営するとともに、全職員の“目線あわせ”を意識した校内指導体制を構築する。
- ▷ 全職員による面接・小論文指導の指導を引き続き実施し、マンツーマン指導によるきめ細かい指導の充実を図る。

⑦ 大学入学者選抜の改革への対応 【5-(3)】

- ▷ 「思考力・判断力・表現力」を問われる大学入学共通テスト（新テスト）における記述式問題に関して、各教科と連携しながら対応策を模索する。
- ▷ 英語4技能外部検定の扱い方について、英語科と協議しながら、早期に4技能を育成する指導体制作りをしていく。
- ▷ 入学者選抜における多面的・総合的評価への対応策として、『classi』を利用した3年間の活動履歴を記録・蓄積するシステム「eポートフォリオ」の活用・研究を行なう。

Ⅲ 業務分担（省略）

Ⅳ 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・第一志望校を絶対にあきらめない、あきらめさせない指導を徹底して行う	・第一志望届を活用すると共に、繰り返し面談を実施することにより、きめ細かい指導を行なう	・2月末に実施する卒業生進路アンケート（2月）
視野の広さ	・生徒自身が“自分の未来をみつめる”機会を提供する	・ナース体験などの実体験の場の提供と、出張授業の開催による「大学での学び」の紹介	・年度末における1年間の活動歴に対する、自らの振り返り（3月）

保健環境課

I 本年度の重点目標

- 1 健康で規則正しい生活習慣を身につけ、自ら健康管理を心掛けられる生徒を育成する。
- 2 心身の健康を将来にわたって保持できる生徒を育成する。
- 3 身の回りの環境を自ら整え、ものを大切にしながら、進んで清掃できる生徒を育成する。

II 具体的目標（課題）と具体的方策

- 1 生徒の健康観察・記録と情報共有（通年）
 - ①健康調査票に見られる生徒の状況を的確に把握し、情報管理の徹底及び支援を確実に行う。
 - ②担任の観察記録を供覧するとともに、担任に対する注意喚起等についてのマニュアルを定め、迅速な情報共有を図り、生徒への支援を強化する。
 - ③教育相談室と学年、生徒課の連携を強化する。情報連絡会・事例検討会の実施。
 - ④特別な支援を必要とする生徒に対し、スクールカウンセラーと連携して、有効で安定した支援を継続的に行う。
- 2 定期健康診断・新入生オリエンテーションの実施（3～6月）
 - ①校医と連携し、事後指導を行う。
 - ②要経過観察者、要受診者については事後指導を徹底する。
- 3 学校行事前の健康調査及び指導（10月・12月・2月）

・ナイトウォーク、修学旅行、マラソン大会等の参加については、事故防止のため、事前にきめ細かい指導を行う。
- 4 生徒の心身の健康と安定した自尊心と相互関係構築を促す講座の準備・運営 (自) (視)
 - ①保健講座 2年生対象 6月17日（月）に実施予定
 - ②薬学講座 1年生対象 11月18日（月）に実施予定
- 5 学校保健委員会の開催 2月 5日（水）に実施予定
- 6 保健・整美・校庭美化委員会の指導 (主)
 - ①保健委員会 保健だより発行 シャボネット補充 身体測定補助等
 - ②整美委員会 ワックスがけ 体育大会雑巾の用意 文化祭ゴミ分別処理等
 - ③校庭美化委員会 ワックスがけ カーテン点検 文化祭ゴミ分別処理等
- 7 衛生的な教室等環境の点検と指導
 - ①教室内環境検査（照度、まぶしさ、CO₂濃度）
 - ②教室内空気検査（学校薬剤師の指導）
 - ③水質検査（毎日残留塩素測定、年2回理化学及び細菌検査）
- 8 校舎内外の清掃と安全点検及びゴミの分別の徹底（通年）
 - ①全校清掃実施案を時機に応じて具体的に示す。（ワックス・清掃用具点検）
 - ②安全点検を計画的に実施し、改善・修繕の担当箇所を明確にして連絡調整をする。
 - ③教室のカーテンの修繕・新規購入を計画的に行う。

教室の机と椅子の安全点検と新規購入を計画的に行う。
 - ④教室及び部室からの缶、ペットボトルのゴミ、弁当殻の持ち帰り指示を行う。
- 9 センター試験・高校入試の会場設営及び机と椅子の管理点検（12～3月）

Ⅲ 業務分担 (省略)

Ⅳ 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	<ul style="list-style-type: none"> 保健・整美・校庭美化委員会の指導 (通年) 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会…保健だより発行 シャボネット補充 身体測定補助等 整美委員会…ワックスがけ 体育大会雑巾の用意 文化祭ゴミ分別処理等 校庭美化委員会…ワックスがけ カーテン点検 文化祭ゴミ分別処理等 	<ul style="list-style-type: none"> 常時確実に行われているかを委員長と顧問でチェックする。 各委員会での前期反省および後期反省による。
視野の広さ	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内外の清掃と安全点検及びゴミの分別の徹底 (通年) 	<ul style="list-style-type: none"> 全校清掃実施案を時機に応じて具体的に示す。 安全点検を計画的に実施し、改善・修繕の担当箇所を明確にして連絡調整をする。 教室のカーテンの修繕・新規購入や、机と椅子の安全点検と新規購入を計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワックス・清掃用具点検を実施後に適切に行われたかを確認する。 修繕箇所と修繕結果を一覧票にする。

教育相談（室）課

I 本年度の目標

自らの心身の健康を意識し、自他を大切にしながら、自らの人生をよりよくしようとする気持ちを育む。

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

自他を尊重する心や態度、規範意識及び人権意識の向上【1－（3）】

- ①生徒へ向けた「相談室だより」において、自他を大切にすること、人権について意識する内容を取り上げる。
- ②「保健講座」においては、SSWも入り、自他の違いを認めながら包括的社会を築くことについて取り上げる。
- ③相談室の担当職員内、養護教諭、学年団との連携を組織的に行い、特に担任の生徒指導を傍らで支援することで、職員の生徒へのまなざしの多角化、余裕を生み、校内全体の人権意識向上をはかる。
- ④スクールカウンセラーの助言を生かし生徒支援を行うとともに、ソーシャルワーカーの役割を生徒、保護者に周知する努力をし、困っている生徒が、自身の生活、心身を整えられるようはかる。
- ⑤「個別の教育支援計画」を適切に作成し、個人情報等について徹底しながら、保護者と連携しながら生徒の支援をする。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	④SC・SSWの利用（自ら行動し他者の援助を求め、よりよい人生を模索しようとする） ⑤個別の支援計画（自らの特性を知り、状況の改善を求める）	④職種の特性を周知し、利用の促進を図る ⑤継続的支援と保護者との連携 ケース会議開催	④利用人数の増加 ⑤支援を必要とする生徒が校内に相談をしながら進路実現（変更）ができたか
視野の広さ	①相談室だより ②保健講座	①②内容の工夫	①長期欠席等、困り感のある生徒の相談室利用増 ②いじめの早期発見と件数の減少

情報課

I 本年度の目標

- 1 『e-教務』を使った成績・指導要録・調査書作成の円滑な運用
- 2 情報通信機器、一斉メールシステムのトラブル対応と授業用PC、タブレットの管理
- 3 Webページを使った広報活動および学校行事の記録写真撮影、管理
- 4 学校案内・SSH通信・公開授業リーフレット・生徒マスタ等の作成

II 重点目標（課題）と具体的方策

- 1 教務課、総務課、進路課、学年主任と連携して、『e-教務』のスムーズな運用を行う。また、2019年度入学生からのカリキュラム変更に対応する。
- 2 校内業務および授業において情報通信機器は欠かせないものであり、トラブルの未然予防および迅速な復旧を行う。
- 3 学校からの情報発信業務である学校案内・授業公開リーフレットの作成およびデータ管理業務である生徒マスタ作成などを他分掌等と連携して適切に行う。【3-(1)】
- 4 中学生は『高等学校調べ』を学校案内やインターネットを用いて行っており、中学生に向けて広く本校の活動内容をWebページを使って公開する。また、科学探究科、SSHの活動内容の広報に努める。【3-(1)】

III 業務分担（省略）

研修課

I 本年度の目標

学校経営構想「Ⅲ 具体的目標」の達成に対して責任を持つ。本校の進む方向性に即した職員研修を充実させ、これからの時代を生き抜く生徒を育成する。

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

【2-4】国際交流、海外語学研修、リーダー研修、海外科学研修等を通じた国際感覚の伸長

【6-4】地域社会、国際社会で活躍できるリーダーの育成及び主権者教育の実施

(1) 「生徒海外語学研修」（1～2学期）の企画・運営

生徒海外語学研修の企画・運営を行う（事前・事後の校内研修、静岡市長表敬訪問の実施、引率は別途決定）。1、2年生から希望を募り、アメリカ合衆国（ネブラスカ州オマハ市）にて7泊9日の海外語学研修（語学学校での研修、ホームステイ、語学研修、現地学生との交流等）を行う。

(2) 国際交流活動の企画・運営

海外からの学校訪問（主にアメリカからの高校生）の受け入れについて、英語科および関係分掌、学年、部活動等と連携して国際交流を企画し、実施する。また、地理地学教室横の掲示板に国際感覚の醸成を目的としたコーナーを設置する。

(3) 海外留学生受け入れ

静岡市観光・国際交流課、静岡市国際交流協会および留学生との連絡・調整を行う。

(4) 留学案内と希望者取りまとめ

留学に関する案内の掲示（HR教室及び地理地学教室横掲示板）及び「トビタテ！留学JAPAN」等の留学プログラムの希望者取りまとめをする。

(5) 「生徒リーダー研修」（2～3学期）の企画・運営

生徒リーダー研修の企画・運営を行う。研修を通して生徒のセルフリーダーシップを涵養し、将来的に国際社会で活躍できる人材を育成する。主として校内研修と、12月末に1泊2日の校外研修を実施する。

(6) 主権者教育プログラムの運営

静岡市議会との連携プログラム「市議会議員と話そう」の連絡調整、実施。

(7) 外部で行われる研修の希望者取りまとめ

「高校生のための日本の次世代リーダー養成塾」（応募期間4～5月）等、学校外で行われる希望者対象の研修の案内と取りまとめ及び応募書類の管理等を行う。

(8) 生涯教育推進

静岡県教育委員会主催研修への出席及び通知文やポスター等による周知を行う。

【3-3】学校評議委員による学校評価等、公聴活動を通じた教育活動の点検及び改善

(1) 「指導の重点と取り組み」及び「学校評価書（学校経営構想シート）」

年度当初に各分掌・学年・教科の目標と具体的な取り組みをまとめた「指導の重点と取り組み」を作成し、学校HP上で公開する。それを元に「学校経営構想シート」と「学校評価書」を作成し、

2月に行われる学校評議員会にて外部評価者より評価を受ける。学校評価書はHPにて公開する他、静岡市教育委員会に提出する。

(2) 教育情報誌「あかしや」

1月末までに原稿を集めて、2月に発刊する。本校における教育活動および日頃の個人研究、調査などを掲載し、教職員、保護者、生徒がともに学びを共有することのできる教育情報誌を目指す。

【4-(4) 授業評価アンケートによる授業評価の実施と活用

(1) 授業評価アンケート

年2回、生徒による授業評価アンケート(シラバスと連動した生徒の自己評価と教員の授業評価)を行い、授業改善に役立てる。また、主体性・視野の広さ・自己有用感の伸長を評価するための基礎資料を作成し、活用方法を検討する。

【5-(2) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業等、魅力ある授業づくりの推進(授業公開、研究授業の実施)

【5-(4) 次期学習指導要領の内容理解の推進及び対応の研究

(1) 新学習指導要領対応授業改善サポート研修 兼 定期訪問

指導主事定期訪問に係る研究授業および全体研修等の企画・運営をする。平成31年度は「新学習指導要領対応授業改善推進サポート研修」と連動して定期訪問を実施する。

(2) アクティブ・ラーニング研修ユニット

各教科2名ずつの教員(ユニット)で行うアクティブ・ラーニング研修(研究授業、他校公開授業への参加等)の企画・運営をする。年間2回、授業研究会(外部への公開授業)を開催する。

(3) 授業相互見学

互いの授業を見学しあってフィードバックする機会を企画し、実施する。

(4) 公開授業の準備

P T A総会に係る公開授業の保護者通知と授業一覧を作成し、配布する。また、年間を通して土曜公開授業のアンケート準備等を行う。

(5) 教育実習の受け入れと管理

教育実習生の受け入れと教育実習の実施及び書類等の管理を行う。

【8-(2) 本校の進む方向に即した職員研修のさらなる充実による、職員の視野の広さの醸成及び学校改善の円滑な遂行

(1) 職員研修の企画・運営

学校経営構想に基づき、各課と協力しながら職員研修(全体型・選択型)を企画・運営する。

① 資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方【CM】

② アクティブ・ラーニングの実践研究【学習・指導方法の改善】

③ 市高科学教育プログラム(ISE P)の開発【SSH】

(2) 悉皆研修の管理

6年次研修、中堅教諭等資質向上研修等の計画及び研究授業の調整、提出物の管理を行う。

(3) 外部で行われる研修の希望者取りまとめ

他校の授業公開や外部団体が主催する研修等について周知し、参加者の取りまとめをする。

Ⅲ 業務分担 (省略)

Ⅳ 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・リーダー養成事業を通して生徒のセルフリーダーシップを涵養し、将来的に国際社会で活躍できる人材を育成する	・生徒リーダー研修において、学校内外での研修を通して得られた学びを生活に活かせるようにプログラムを組む	・研修レポート（2月） ・研修後アンケート（2月）
視野の広さ	・海外高校生・青少年の訪問による受け入れ、海外からの訪問者の受け入れ事業の実施	・対話型の企画によって、生徒が価値観の多様性に触れる機会を多く設定する	・事後アンケート（随時）

図書課

I 本年度の目標

本を通して自己有用感、視野の広さ、主体性を育むことができるように図書館の積極的利用を促す。図書館が、生徒たちが自らさまざまな本に出会い、本の楽しさや人生にとって読書が必要不可欠であることを感じ取る場となるように環境整備に努める。

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

1. 各教科、学年、分掌における指導上、必要な書籍の選書、購入 【1－(4)】
 - ・各教科、学年、分掌と連絡を密にして、実地的な書籍の選書、購入を行う。
 - ・小論文に必要な図書の購入を図り、小論文コーナーを充実させる。
2. 図書館利用を促す 【1－(4)】
 - ・先生方に授業等において積極的に利用していただくように職員会議等を通じて呼びかける。
職員休養室にミニミニ図書館を設置する。
 - ・生徒には定期テスト前に自習室としての利用を呼びかける。
新入生に対しては、国語の授業を利用して、図書館利用の方法を指導する。
また、新入生には春休みの課題として本の感想及び、ポップ作成を課しているため、その中から優秀作品を選び校内掲示を行う。
3. 読書感想文コンクールへの参加 【1－(4)】
4. 図書委員会の活動 【2－(1)】
 - ・図書館ニュースの作成・・・新着図書や生徒のお薦め本の紹介を中心に情報発信していく。
 - ・クラスでの図書館ニュースの案内及び、掲示・・・クラスで図書館利用を呼びかける。
また、定期的にクラス掲示を担当することで委員としての自覚を持つ。
 - ・古本市の運営・・・図書を有効活用する機会を作り、運営する。
 - ・本の貸し出し、返却処理などとおして図書館の運営に積極的に関わっていく。
 - ・ビブリオバトル
 - ・新入生へのお薦め本紹介冊子を作成し配布する。
5. 刊行物の作成 【3－(1)】
 - ・図書館だより・・・一年の活動を総括し、あわせて読書感想文優秀作品を載せる。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・ 図書委員会の常時活動	・ 貸出業務 ・ ウェルカムボードの作成 ・ 図書館ニュースの作成	・ 常時確実に行われているかを 委員長と顧問でチェックす る。 ・ 各委員会での前期反省および 後期反省による。
視野の 広さ	・ 読書感想文コンクールへの 参加	・ 読書感想文コンクール、 高校生読書体験記コンク ールに参加	・ コンクールへの出品

科学探究科（SSH）

I 本年度の目標

科学探究科の指導の充実と第2期 ISEP の円滑な実施

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

（1） I S E P（Ichiko Science Education Program）の改善・拡充【7-（1）（2）（3）】

①「探究プログラムⅡ」における課題研究の充実

- ・研究内容の深化に向けて大学等との連携に力を入れる。
- ・「探究プログラムⅠ」において課題設定の場面を設ける。
- ・形成的評価のための「実験用ルーブリック」の見直しを図り、生徒が研究内容を客観的に振り返るためのツールとして活用する。
- ・各種コンクールや発表会への参加を生徒に促す。

②各プログラムの円滑な実施

- ・大学や静岡科学館等との連携
- ・SSH運営指導委員会の開催、ISEP企画委員会の開催
- ・次年度より始まる「SEC-Ⅲ」の実施内容、評価方法の検討
- ・普通科における探究活動の充実に向けた支援

③SSH事業評価にかかる研究の充実

- ・本校独自アセスメント（科学リテラシーテスト、探究能力測定グループワーク）の実施および改善

（2）科学探究科の活動に関する広報の充実【3-（1）】

- ・ホームページ内のSSHに関連する記載内容を第2期SSHの内容に書き換える。
- ・ホームページやFacebookを利用し、科学探究科の取組を発信する。

（3）少人数指導の工夫【7-（4）】

- ・数学、英語、理科において実施している少人数指導のあり方を工夫する。
- ・年に2回生徒アンケートを実施し、その結果を担当者にフィードバックする。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	課題研究の充実	少人数生徒に1名の教師を配して課題研究に取り組ませる。ルーブリック等を活用して生徒と教師との議論の機会を増やし、生徒の主体的な取組を促す指導を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート（10,2月） ・ルーブリックによる評価 ・レポート、発表会
視野の広さ	各プログラムの実施	様々な分野の講演会やフィールドワーク、実験実習を行い、生徒が自らの生き方あり方を考える機会を創出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート（10,2月） ・事後アンケート（随時） ・レポート

第 1 学年

I 本年度の目標

高校という新たな共同体内での共生・協働を通して、自分を知り、他者を尊重する姿勢を身につけさせる。また、高校生活の基礎となる生活習慣を確立させ、学習と部活動を両立させ、学習習慣を身につけさせる。そして、生徒一人ひとりが自立し、自分の意志で主体的に行動することができるようにする。

II 本年度の重点目標(課題)と具体的方策

1. 高校という新たな共同体内での共生、協働を通して、自分を知り、他者を尊重する姿勢を身につけさせる。【1－(3)、2－(1)、2－(3)】

- ① 学年集会やHR活動を利用して、自他を敬愛する意識を涵養するような指導、講話を行う。
- ② 「自分とはどのような人間であるのか？」という問に対する答えを模索する中で、自分を知り、自分を肯定的に評価できるようにする。
- ③ 「いじめ0」を目指し、それに関わる指導が発生しないようにする。
- ④ 「こころのアンケート」において提起される問題が、学年全体数の5%以下になるようにする。
- ⑤ 正副担任が生徒との面接指導を計画的に行い、問題の早期発見・早期対処を心掛ける。また、クラス間で情報の共有をし、必要に応じて学年主任等との面談を行う。

2. 高校生活の基礎となる生活習慣を確立させ、学習と部活動を両立させ、学習習慣を身につけさせる。【1－(1)・(2)、4－(2)、8－(1)】

- ① 社会生活の基本である、「時間を守る」ことと「あいさつをする」ことを励行させる。
- ② 遅刻、欠席の少ない学年を目指し、「皆勤」の生徒が学年全生徒数の半分以上を超えるようにする。
- ③ 学習(生活)時間調査を継続的に実施し、家庭での時間の使い方の把握に努める。特に帰宅時間と学習開始時間に注目し、学習に早く取り掛かり、早く就寝する体制を整えさせる。また、個別指導の資料として活用する。
- ④ 予習・復習をしっかりと行った上で授業に臨ませ、基礎学力・応用力の定着を図る。また、課外授業にも積極的に参加することを促す。学習時間は、平日2h以上、休日4h以上を目標とする。

3. 生徒一人ひとりが自立し、自分の意志で主体的に行動することができるようにする。

【2－(1)、5－(1)・(2)】

- ① 目まぐるしく変化する社会に対応できるよう、自分の意志で主体的に行動し、答えの無い問題の解を迫及できる姿勢を、SS探究やALなどを通して涵養する。
- ② 遠足、文化祭、スポーツ大会、体育大会、などの諸行事や、部活動、生徒会活動、HRの係活動など日々の活動を通して、他者との共生や協働の意義を学び、生徒一人ひとりが自分の意志で主体的に行動することができるようにする。また、事後アンケートを活用し評価を行なう。

4. 全体に関わるもの

- ① 学年主任がリーダーシップを発揮し、学年全体で生徒の抱える問題を共有し、協力して業務にあたる。
- ② 教育活動は学校だけで完結するものではないため、家庭との連携や連絡を密にし、記録に残し、報告、連絡、相談を励行する。

Ⅲ 業務分担（省略）

Ⅳ 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（Ⅱから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・遠足、文化祭、スポーツ大会、体育大会、などの諸行事や、部活動、生徒会活動、HRの係活動など日々の活動を通して、他者との共生や協働の意義を学び、生徒一人ひとりが自分の意志で主体的に行動することができるようにする。	・複数の生徒で意見を集約したり、1つのことをやり遂げるような経験ができる場面設定をする。 ・生徒一人ひとりに役割を与え、主体性を持って物事に取り組み、自己有用感を醸成できるようにする。	・HR担任や顧問、係りの先生からの聞き取りを随時行なう。 ・ポートフォリオや探究手帳の確認を行う。 ・事後アンケートを実施する。 ・主任面談の実施をする。
視野の広さ	・目まぐるしく変化する社会に対応できるよう、自分の意志で主体的に行動し、答えの無い問題の解を追及できる姿勢を、SS探究やALなどを通して涵養する。	・生徒が自ら考え、自ら行動し、解決困難な問題の答えを求めなければならない場面設定や環境づくりをする。	・HR担任や授業担当、SS探究担当からの聞き取りを随時行なう。 ・ポートフォリオや探究手帳の確認を行う。 ・振り返りシートの活用 ・事後アンケートを実施する。

第 2 学年

I 本年度の目標

学習への積極的な取り組みにより、学習習慣と学力の定着をはかる。また、HR活動、生徒会活動、部活動、諸行事への積極的な参加を通じて、文武両道を実践し、調和のとれた人間的な成長を促す。そして、様々な場面において他者を尊重し、自分が認められる存在である意識を高めていく。

II 重点目標（課題）と具体的方策

- 1 市高の一員としての自覚と誇りを養い、基本的な生活習慣を確立し、自他を尊重する心や態度、規範意識および人権意識の向上をはかる。また、生徒の活躍する場を作り、リーダーを育成する。

【1-（1）（3）】

- ① 登下校時や校内で、気づきの心を持ち、自ら、気持ちよく心がこもった挨拶ができるようにする。
- ② 時間管理の意識を持ち、5分前行動を心掛ける。
- ③ 計画的に生徒との面接指導を行い、問題の早期発見・早期対処を心掛ける。
- ④ 諸行事や、部活動、生徒会活動、HRの係活動など日々の活動を通して、自分の力を発揮することで、自己有用感を育む。
- ⑤ 上記4点を心掛けながら、規範意識や人権意識を養う。

- 2 粘り強く継続的な学習活動ができる生徒を育成するための指導と支援を行い、学習に主体的に取り組む姿勢を育てる。

【4-（1）（2）】

- ① 予習・授業・復習のサイクルを実行し、日々の授業を大切にさせる。
- ② 自学自習による家庭学習時間の確保。
- ③ 諸テストの準備と振り返り確実にを行う。
- ④ 必要に応じて、面談や集会、個別指導などを行い、生徒の状況を把握して、適切な助言を与える。

- 3 自らの進路に向き合い、主体的に進路研究を行う。また、小論文模試、キャリア講演会、学部学科説明会などを通して、社会に目を向け、社会で活躍するために必要な能力を養う。

【6-（1）（2）（3）】

- ① 探究活動、BF、CD外部との交流等を積極的に活用し、進路目標を具体化させる。
- ② 計画的、継続的な面談を実施し、生徒の目標設定に対して適切な支援を行なう。
- ③ 情報を適切に活用し、社会の変化や視野を広げる機会を提供する。

Ⅲ 業務分担（省略）

Ⅳ 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	自学自習による家庭学習時間の確保	現状の把握と目標設定を行う スタディレコードへの記入 面談の実施	正副担任の毎日のチェック、 月末の顧問のチェック 正副担任による面談
視野の広さ	変化の激しい、多様化した社会に対応できるように自分の意志で主体的に行動し、答えを導き出す姿勢をSS探究ⅡやAL等を通じて涵養する	生徒が自ら考え、行動し、解決困難な問題や正解のない未来を生き抜くための場面設定や環境を提供する	HR担任や授業担当、SS探究Ⅱ担当からの聞き取りを随時行う。 CLASS Iや探究手帳の確認を行う。 振り返りアンケートの実施

第3学年

I 本年度の目標

- ①学習活動、部活動、HR活動、生徒会活動、諸行事等への積極的な参加を通して、自主性を育て、調和のとれた成長を促す。
- ②進路意識の高揚に努め、進路実現を目指し粘り強く適切な指導と支援を行う。
- ③社会への関心を高め、視野を広げる機会をつくる。

II 重点目標（課題）と具体的方策

- 1 市高の一員としての自覚と誇りを養い、凡時徹底を通して将来的には社会の有用な構成員となることを目標に指導と支援を行う。 【1-（1）（3）】

- ① 登下校時や校内で、気づきの心を持ち、自ら、気持ちよく心がこもった挨拶ができるようにする。
- ② 欠席・遅刻することなく登校し、次に何をすべきか考え、5分前行動を心掛ける。
- ③ 計画的に生徒との面接指導を行い、問題の早期発見・早期対処を心掛ける。
- ④ 諸行事や、部活動、生徒会活動、HRの係活動など日々の活動を通して、自分の力を発揮することで、自己有用感を育む。
- ⑤ 上記4点を心がけながら、規範意識、人権意識を養う。

- 2 学習においては部活動との両立をはかり、粘り強く継続的な学習活動ができる生徒を育成するための指導と支援を行い、学習習慣を定着させるとともに主体的に取り組む姿勢を育てる。

【4-（2）】

- ① 予習・授業・復習のサイクルを実行し、毎日、毎時間の授業を大切にさせる。
- ② 自学自習による家庭学習時間の確保。
- ③ 諸テストの準備を確実にこなわせる。また、テスト後に問題のやり直しをし、理解が不十分であった箇所を点検させる。
- ④ 必要に応じて、面談や個別指導などを行い、生徒の学習状況を把握して、適切な助言を与える。

3 進路指導

最後まで進路実現に向け、粘り強く努力できる生徒を育成する。また、社会に目をむけ、自分の考え方を育て、表現する力を養う。 【6-（2）（3）】

- ① 部活引退後の気持ちの切り換えを早くし、授業や学年集会、面談などを利用し最後まで粘り強く取り組む意識をもたせる。
- ② 計画的、継続的な面談を実施し、生徒の目標設定に対して適切な支援を行なう。
- ③ BFの時間を活用し、受験情報を提供するとともに、知識を深め、視野を広め、生き方在り方について学ぶ機会とする。
- ④ より効果的な課外を計画、実施する。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的な方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	粘り強く継続的な学習活動ができる生徒を育成するための指導と支援を行い、学習習慣を定着させるとともに主体的に取り組む姿勢を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々で自分の弱点などを分析し、学習計画を立てる。 ・担任が面談で学習計画について助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの振り返りや面談などで確認
視野の広さ	最後まで進路実現に向け、粘り強く努力できる生徒の育成。また、社会に目をむけ、自分の考え方を育て、表現する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・BFや小論文講座、面談などで、自分の進路に関わる現代社会の問題点を考える機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文や作文、面談などで確認。